新　響

特別演奏会

1969

主 催　株式会社たかぎ音楽事業部

プログラム

Ⅰ　シンフォニア　変ロ長調　作品18の2 ……ヨハン・クリスチャンバッハ作曲

1　アレグロ・アッサイ
2　アンダンテ
3　プレスト

Ⅱ　交響曲　第40番　ト短長　K550 ……ウオルフガング・アマディウス・モーツアルト作曲

1　アレグロ・モルト
2　アンダンテ
3　メヌエット・アレグレット
4　アレグロ・アッサイ

Ⅲ　交響曲　第5番　ハ短調〈運命〉　作品67 ……ルートウィッヒ・ブアン・ベートーベン作曲

1　アレグロ・コン・ブリオ
2　アンダンテ・コン・モート
3　アレグロ
4　アレグロ



常任指揮者　**芥　川　也　寸　志**

1925年東京生れ。
1949年東京音楽学校研究科作曲部を卒業。ピアノを井口基成，指揮を金子　登，作曲を橋本国彦，下総皖一，伊福部　昭に師事。
1956年，新交響楽団の創立者の1人として常任指揮者となり，以来13年にわたって新響の指導育成にあたり，名実共に新響の原動力となっている。
主要作品としては，『交響三章』『交響管弦楽のための音楽』『交響曲第1番』『弦楽のための三楽章』『エローラ交響曲』オペラ『暗い鏡』『弦楽オーケストラのための陰画』などがある。

曲目解説

シンフォニア　変ロ長調　作品18の2　　クリスチャン・バッハ

大バッハの末子，クリスチャンは約60曲の交響曲を書いている。最も著名であるこの曲は1774年，歌劇「ルチオ・シルラ」への序曲として作曲されたが，彼の場合「交響曲」とはいえこの曲でも明らかなように「イタリヤ風序曲」の急ー緩ー急の3部からなる短い単楽章の作品を拡大したものである。各楽章の形式はのちの時代から見れば不完全であるが，「ダ・カッポ形式」の序曲よりは，はるかに交響曲に近いものがうかがわれる。

交響曲　第40番　ト短調　K550　　モーツァルト

交響曲第39番，41番「ジュピター」と共にモーツァルトの最後をかざる三大交響曲と呼ばれ，ベートーベンの交響曲に近ずいたと云われるこの曲は彼の交響曲の中でも最もひろく愛好されている。この三大交響曲がきわめて短期間に作曲されており，第39番変ホ長調の愉悦にみちたあかるさと，第41番「ジュピター」の壮麗さに対して暗い抒情美をたたえたこのト短調はいちぢるしい対比をなしている。この交響曲は情熱的で情緒にあふれた楽想を持っているが，このような内容はモーツァルトにとってたしかにめずらしいことであり，シューリッヒは「経験されたある種のできごとの反映である」と言っている。

交響曲　第5番　ハ短調〈運命〉作品67　　ベートーベン

この曲は冒頭の〝タタタター〟という動機とフィナーレの輝かしい大行進曲とによって今や知らぬ人はありません。この曲がこれほど有名になったのは，ベートーベン自身のモチーフの説明〝かく運命は扉をたたく〟の言葉に由来する「運命」という呼び名に負うところも決して少くはないでしょうが，この5番目の交響曲が作曲者37才のあぶらの乗り切った一つの頂点をなす傑作である事もまた事実です。構想を得てから世に出すまでに5年余の歳月を費しただけのことはあって，あの単純なモチーフの積み重ねによってあれほど壮大な劇的な音楽に仕上げたというのは全く驚異という他はありません。激しい第1楽章に続くのは戦いの後の想いにも似たゆっくりな2楽章で，魅力に満ちていますが，ここには全く種類の違った観念が隣りあわされており，それらははじめにチェロとビオラに出る優雅な旋律と途中に3回出てくるトランペットを中心にしたファンファーレによって代表されます。次の不気味な様相をはらんだ第3楽章はフィナーレの勝利の大行進の前置かれて効果は満点。そしてこの第3楽章からフィナーレへ移行する部分のクレッシェンドは，第4交響曲の第1楽章のクレッシェンドと共にベートーベンの作品の中でも最も劇的な効果の1つに数えられています。ピッコロやコントラファゴット，それにトロンボーンを加えた華やかなフィナーレは「運命交響曲」の人気を決定的なものにしていますが，この楽章は重厚なソナタ形式によっていて，しかも中間部に前楽章のスケルツォの主題が戻ってくるなどの特長をそなえています。このスケルツォが戻る部分は，ベートーベンがその9つの交響曲の中でなした多くの試みの中で初演当時から歓迎された数少い例の1つであったと記録されています。速度を増した終結部は有無を言わせぬ勢いで主和音を続けざまに響かせながら，そのまま拍手の渦にまき込む迫力を持っています。

新交響楽団について

新交響楽団は1956年に設立された，わが国における代表的なアマチュア・オーケストラです。メンバーはすべて職場で働いている人々，あるいは学生たちで構成され，設立以来13年間，アマチュア精神にもとずく誠実で真面目な演奏をする事をモットーとして私達の生活感情を歌い続けて来ました。現在まで自主公演の外に日本各地の特にオーケストラの演奏に接する機会の少ない地方での公演や音楽教室に出演してまいりました。1967年秋には日本を代表するアマチュア・オーケストラとして初めて招かれてソビィエト演奏旅行を行いました。今後も更に積極的に活動を続けてまいりたいと考えておりますが，皆様の中からも私達の仲間となられる方々の参加を期待しております。

TAKAGI

たかぎ

石岡市中町705
電話(2)3345(代)

御礼とお願い

本日はこの演奏会にご来場下さいましてまことに有難うございました
石岡で初めての催しでございますので係不なたのれめ不行届の点はあしからずご容赦下さいませ
次回の催しの参考としてアンケートを用意して見ました　卒直なご感想をお聞かせ願えれば誠に幸いでございます
お帰りのときアンケート箱(入口ロビーに備付)に入れて下さいませ
尚不躾なお願いで恐縮ですがみなさんの演奏会でございますので開演中のお出入り、おたばこ、飲食、私語等はご遠慮願います
みなさんでたのしい気持のよい演奏会にしたいものと念じて居ります

会員各位

主　催　者

アンケート

◉演奏テクニックは　満　足　まあまあ　もうチヨット
◉指揮者については　満　足　まあまあ＿＿＿＿
◉曲目選定については　丁度よい　もっと高度＿＿＿＿
◉次回ご希望のものは　ピアノコンチエルト、バイオリンコンチエルト
ピアノ独奏会　〃　独奏会
オペラ独唱会、バレエ、ポピュラー
その他＿＿＿＿
◉この会をお知りになったのは　新聞で　チラシで　ポスターで
知人のおすすめで　店内放送で
◉そのほかお気付の点ご感想など

※若しよろしかったら おところ おなまえ等お聞かせ願えれば次回の催し等をご案内いたします　よろしく

おところ　市町村　町　番地

おなまえ
おとし　様(当　才)

おしごと　ご趣味

新しい文化品のショッピングセンター　たかぎ　音楽事業部
石岡市中央　TEL②3345